

事務事業名	河川管理事業				担当	建設部 建設課 維持係		
政策名	A	暮らしやすさが実感できるまちづくり			電話番号	0285-83-8148		
施策名	04	治水対策の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	河川法・道路法					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和29 年度～）		
予算科目	1.一般会計	8.土木費	3河川費	1河川総務費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	・準用河川「井頭川、西川」の河川管理者として当該河川の管理をしている。 ・国からの受託により、鬼怒川・小貝川の排水樋管の管理をしている。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 26年度実績 ・準用河川「井頭川、西川」の維持管理 ・河川排水樋管管理業務受託  27年度計画 26年度同様	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移 名称 単位 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(実績) 27年度(見込) ア：準用河川管理延長 m 5,172 5,172 5,172 5,172 5,172 イ：準用河川管理数 箇所 2 2 2 2 2 ウ：排水樋管管理数 箇所 9 9 9 9 9 エ オ
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 ・市が管理している準用河川	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移 名称 単位 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(実績) 27年度(見込) ア：準用河川延長 m 5,172 5,172 5,172 5,172 5,172 イ：準用河川数 箇所 2 2 2 2 2 ウ：排水樋管数 箇所 9 9 9 9 9 エ オ
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 準用河川の機能を維持する 利用者の利便性の向上と安全な環境の維持	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移 名称 単位 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(実績) 27年度(見込) ア：準用河川草刈面積 m2 15,931 15,931 15,931 15,931 15,931 イ：準用河川数草刈路線 箇所 2 2 2 2 2 ウ：排水樋管点検数 回 17 17 17 17 17 エ オ
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 河川としての機能を維持する 良好な河川環境をつくる	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移 名称 単位 23年度(実績) 24年度(実績) 25年度(実績) 26年度(実績) 27年度(見込) ア：きれいな街と感じている市民の割合 % 69.7 72.1 74.9 76.7 79.0 イ % 58.4 58.2 59.8 71.7 71.8 ウ エ オ

(2) 総事業費の推移		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金 千円 1,398 1,403 1,683 1,809 1,823					
		県支出金 千円 0 0 0 0 0					
		地方債 千円 0 0 0 0 0					
		その他 千円 0 0 0 0 0					
	一般財源 千円 2,457 2,828 3,340 3,337 4,478						
	事業費計(A) 千円 3,855 4,231 5,023 5,146 6,301						
	人件費	正規職員従事人数 人 3 3 3 3 3					
		延べ業務時間 時間 90 90 90 90 200					
		人件費計(B) 千円 382 378 366 380 844					
トータルコスト(A)+(B) 千円 4,237 4,609 5,389 5,526 7,145							

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	河川管理者として準用河川を管理する義務がある。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	労務単価等の高騰により、年々事業費が増加の傾向にある。 準用河川については、河床に雑草の繁茂が見られる箇所がある。 河床掘削等の管理が必要な箇所がある。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	毎年、河床の除草、河床掘削の要望がある。

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 河川の適正管理は、防災対策の充実強化を目指す市の政策体系と結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 河川法により河川管理者として準用河川を管理する義務がある。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 河川法により河川管理者として準用河川を管理する義務がある。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 河床に土砂の堆積が見られるので、適時に浚渫を実施すべきである。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 河川管理義務が果たせない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない 河川法により規定されている。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 河川管理義務が果たせない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 委託可能なものは実施済である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 不特定多数の人が利用する施設であり、公平・公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> : 目的妥当性 <input type="checkbox"/> : 有効性 <input type="checkbox"/> : 効率性 <input type="checkbox"/> : 公平性 ) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？ 河床に土砂の堆積が見られるので、適時に浚渫を実施すべきである。																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 河川管理上、適時に浚渫を実施すべきである。																							